

# 古文ドリル：係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」識別100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：係り結びの法則

古文の係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」は、**文末の活用形を変える**。これが「係り結びの法則」。

| 係助詞 | 結びの活用形 | 意味             |
|-----|--------|----------------|
| ぞ   | 連体形    | 強調             |
| なむ  | 連体形    | 強調（柔らかく余情的な強調） |
| や   | 連体形    | 疑問・反語          |
| か   | 連体形    | 疑問・反語          |
| こそ  | 已然形    | 強調             |

## 識別の鉄則

1. **文中に係助詞**を見つける
2. **文末の活用形**を確認（連体形 or 已然形）
3. **意味**を判定（強調 or 疑問・反語）
4. 「こそ」＋已然形が**文中で切れる**と **逆接** になる場合あり
5. **結びの省略**に注意（「あれ」「あらめ」などの省略）
6. **結びの流れ**（結びになるはずの語に「に」「ば」「ど」などが付いて文が下へ続くと、結びの形にならない）にも注意

## 結びの省略

係助詞の下の子の結びの語（「あれ」「あらむ」「言ふ」など）が **省略** されている場合あり。例：「～に**こそ**（あれ）」「～と**ぞ**（言ふ）」「～に**や**（あらむ）」なお、「知らず**や**」「過ぐる**か**」のように述語のあとの文末にある「や」「か」は文末用法（疑問・反語）で、結びの省略ではない（文末の「や」は終止形に、「か」は連体形に付く）。

## 反語の見分け方

「や」「か」が反語になる手がかり： - 文脈で「いや、～ない」と否定の含意 - 「やは」「かは」は反語になることが多い - 文末に推量（む・らむ・べし）が来ると反語になりやすい

### 「なむ」の識別（4種類）

| 「なむ」の種類       | 判別                |
|---------------|-------------------|
| 係助詞「なむ」       | 体言・連体形＋なむ／連体形結び   |
| 終助詞「なむ」       | 未然形＋なむ／願望「～してほしい」 |
| 完了「ぬ」未然＋推量「む」 | 連用形＋なむ            |
| ナ変動詞未然＋推量「む」  | 「死なむ」「往なむ」        |

### 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

上の「識別の鉄則」は、係り結びを見分ける基本の手順。  
こちらは **試験本番ですばやく答えを出す** ための実戦テクニックです。

#### コツ① 文末を最初に見る（係り結びの逆引き）

係助詞問題は **文末の活用形** を先に確認する方が速い。 - 文末が **連体形** で結ばれている → 上に「ぞ・なむ・や・か」がないか探す - 文末が **已然形** で結ばれている → 上に「こそ」がないか探す  
文末から逆算する方が、係助詞を見落とすリスクが減る。

#### コツ② 「やは・かは」を見たらまず反語

「や」「か」だけでは疑問か反語か迷うが、**「やは」「かは」** はほぼ反語。 - 「さる事**やは**ある」  
「誰**かは**知る」 → 「そんなことがあるだろうか、いや、ない」「誰が知っているだろうか、いや、誰も知らない」

「は」が付いていたら、まず反語で訳してみる（疑問のこともあるので、文脈で確かめる）。

#### コツ③ 「なむ」の4種は直前で即決

「なむ」を見たら **直前の活用形** を即チェック。 - **連用形＋なむ** → 完了「ぬ」未然＋推量「む」（強意） - **未然形＋なむ** → 終助詞「なむ」（願望「～してほしい」） - **体言・連体形＋なむ** → 係助詞「なむ」（強調） - **「死／往」＋なむ** → ナ変動詞未然＋推量「む」

直前が連用形なら完了+推量、未然形なら願望、体言なら係助詞。ただし「見」「出で」のように未然形と連用形が同じ形の動詞は、形だけでは決まらないので文脈で決める（「いざ」があれば、終助詞ではなく完了+意志・勧誘）。

#### コツ④ 「こそ+已然形+、」は逆接の合図

「こそ」+ 已然形で **句が切れて続いていく** ときは、強調ではなく **逆接** に転じる。 - 「花**こそ**散れ、葉はなほ残る」 → 「花は散るけれど、葉はまだ残る」

「こそ～已然形+、」のかたちは「～けれども」と訳す。

#### 試験本番でのチェック順序

1. **文末の活用形** を見る（連体形か已然形か）
2. 文中の **係助詞** を特定（ぞ・なむ・や・か・こそ）
3. 「やは／かは」が来ていたら、まず **反語** を考える
4. 「なむ」は **直前の活用形** で4種を見分ける

→ この順番で見れば、すばやく答えが出ます。

#### よくある引っかけ

- ・「死な**む**」を完了「ぬ」未然+推量と誤答（実はナ変未然+推量）
- ・「こそ～已然形+、」を強調と訳す（実は逆接）
- ・「や／か」を全部疑問と訳す（文脈で反語の可能性も常にチェック）
- ・結びの省略（「あれ」「あらめ」省略）に気づかない

## 採点表

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

## 【第1部】基礎編（Q1～Q20）

係り結びの五助詞を識別する基礎。

Q1. 次の傍線部「ぞ」と結びを識別せよ。

花ぞ咲く。

Q2. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

月なむ清く照る。

Q3. 次の傍線部「や」と結びを識別せよ。

鳥や鳴く。

Q4. 次の傍線部「か」と結びを識別せよ。

君か思ふ。

Q5. 次の傍線部「こそ」と結びを識別せよ。

心こそ安けれ。

Q6. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

春ぞ来たる。

Q7. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

なほ我れこそ思ひ侍れ。

Q8. 次の傍線部「や」を識別せよ。

雨や降る。

Q9. 次の傍線部「か」を識別せよ。

かかる憂き世に、いかなる人か心安からむ。

Q10. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

月こそ雲に隠るれ。

Q11. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

我れぞ知る。

Q12. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

鳥なむさへづる。

Q13. 次の傍線部「や」を識別せよ。

人の住むにや、ともし火ほのかに見ゆ。

Q14. 次の傍線部「か」を識別せよ。

今宵は誰か来むと、門のかたを見やる。

Q15. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

山こそ深けれ。

Q16. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

鶯ぞ鳴き出づる。

Q17. 次の傍線部「や」を識別せよ。

風や強き。

Q18. 次の傍線部「か」を識別せよ。

家づとには、何かよからむ。

Q19. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

春こそいとあはれなれ。

Q20. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月の出づるを人ぞ待つ。

基礎編 / 20

## 【第2部】標準編（Q21～Q50）

反語、結びの省略・流れ、「やは・かは」の応用問題。

Q21. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

命**やは**惜しき。

Q22. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

思ふ事**かは**忘れぬる。

Q23. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの逆接）。

物言はぬ**こそ**よからめ、人見れば言ふ。

Q24. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此処に**ぞ**書きける。

Q25. 次の傍線部「なむ」を識別せよ（係助詞？終助詞？）。

早く花咲か**なむ**。

Q26. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

男**なむ**ありける。

Q27. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

我が思ふ人は、いつこに**ぞ**ある。

Q28. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

春の夜のやみはあやなし梅の花色こそ見えね香**やは**かくるる。

Q29. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いづれの御時に**か**、女御、更衣あまたさぶらひ給ひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

Q30. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

かの白く見ゆる山**ぞ**、富士の山なる。

Q31. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

雪の白きにや、はや梅**ぞ**ひらく。

Q32. 次の傍線部「や」を識別せよ。

月**や**あらぬ春**や**昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして。

Q33. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

雪のいと高く降りたるを**こそ**見れ。

Q34. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いかがせむと**か**思ひ給ふ。

Q35. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

人はいさ心も知らずふるさとは花**ぞ**昔の香ににほひける。

Q36. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

梅も咲きぬ。鶯もやがて鳴き**なむ**。

Q37. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

鳥**ぞ**ねぐらに帰る。

Q38. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

花**こそ**散りけれ、若葉ぞ生ふる。

Q39. 次の傍線部「や」を識別せよ。

思ふ事**や**ある。

Q40. 次の傍線部「か」を識別せよ。

君は、この花の盛りを知らで過ぐる**か**。

Q41. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

あはれと**ぞ**思ふ。

Q42. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

我が宿の梅こそよけれ。

Q43. 次の傍線部「や」を識別せよ。

「この人を知らずや」と問へば、「知らず」と答ふ。

Q44. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いづ方へか行く。

Q45. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待たなむ。

Q46. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

大方は月ぞをかしき。

Q47. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

風こそ寒けれ。

Q48. 次の傍線部「や」を識別せよ。

ほととぎすは鳴くや鳴かずやと、人に問ふ。

Q49. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

いかに嘆くとも、亡き人**かは**帰るべき。

Q50. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

心**ぞ**乱るる。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

複雑な結びの省略・流れ、複数係助詞の並立、和歌中の係り結び。

Q51. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

山里は冬**ぞ**さびしさまさりける。

Q52. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

八重むぐらしげれる宿のさびしきに人**こそ**見えね秋は来にけり。

Q53. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

嘆けとて月**やは**ものを思はするかこち顔なるわが涙かな。

Q54. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

友と語らふに**こそ**、世のうきことは忘るれ。

Q55. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

翼あらましかば、恋しき人のもとへぞ飛び行かまし。

Q56. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

いざ、我も月を見なむ。

Q57. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

あけぼのこそをかしけれ。

Q58. 次の傍線部「や」を識別せよ。

花もみな散りぬ。春や過ぎぬらむ。

Q59. 次の傍線部「か」を識別せよ。

何か思ふ。

Q60. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。

「春はいづれの時かをかしき」と問へば、「あけぼのこそ」と答ふ。

Q61. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此の歌ぞよろしき。

Q62. 次の傍線部「ものを」を識別せよ。

白玉か何ぞと人の問ひし時露とこたへて消えなましものを。

Q63. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

夢こそさめね。

Q64. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

風ぞ吹く。

Q65. 次の傍線部「か」を識別せよ。

君ならで誰にか見せむ梅の花。

Q66. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月ぞ残れる。

Q67. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

雪降りてこそいとあはれなれ。

Q68. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

我れと汝やは異なる。

Q69. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

何かは思ふらむ。

Q70. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

昔、この山に鬼住みけりとぞ。

Q71. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

春こそ来たれ。

Q72. 次の傍線部「や」を識別せよ。

「この里に我を知る人やある」と人に問ふ。

Q73. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

雪の朝に犬ぞ走る。

Q74. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

いまはこそさらに思はね。

Q75. 次の傍線部「か」を識別せよ。

門の外に泣く声す。いかなる人か、かかる目を見るらむ。

Q76. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

かくて年月**ぞ**過ぎぬる。

Q77. 次の傍線部「や」を識別せよ。

かの人**は**、都の人**にや**。

Q78. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

日も暮れぬめり。道**をこそ**急がめ。

Q79. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

誰**かは**来む。

Q80. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

人を待つ夜**ぞ**長き。

応用編 / 30

## 【第4部】入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出の引っかけ・結びの省略・流れ・複合係り結び。

Q81. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時**ぞ**秋は悲しき。

Q82. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの流れ）。

我れ**こそ**思ひ侍るに、人は知らず。

Q83. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

道知れる人**なむ**ありける。

Q84. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

早く帰る**なむ**。

Q85. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

散ら**なむ**。

Q86. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いとあはれと**ぞ**おぼゆる。

Q87. 次の傍線部「や」を識別せよ。

幼き時は、親の心を思ひ知らで**や**ありけむ。

Q88. 次の傍線部「か」を識別せよ。

友もみな去りぬ。わが心を知る人**か**世にあらむ。

Q89. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

ものいはぬ世**こそ**さびしけれ。

Q90. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

涙**ぞ**こぼるる。

Q91. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

かかる所に、人**やは**住む。

Q92. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いかなる御代に**ぞ**侍りし。

Q93. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

人**こそ**つらけれ、世はうらめしからず。

Q94. 次の傍線部「か」を識別せよ。

これは誰がしわざに**か**。

Q95. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

あはれに**ぞ**思ひ知らるる。

Q96. 次の傍線部「や」を識別せよ。

此の世にあるもの、皆夢なりとや。

Q97. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。

人の心の変はるも、世のならひにこそ。

Q98. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

ひとり住む宿の秋の夕暮れぞ寂しき。

Q99. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

君もまた行かなむ。

Q100. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

あれこそ世に類なき名歌なれ。

入試レベル / 20

## 採点振り返り

| セクション        | 配点  | 得点 |
|--------------|-----|----|
| 基礎（Q1～Q20）   | 20  |    |
| 標準（Q21～Q50）  | 30  |    |
| 応用（Q51～Q80）  | 30  |    |
| 入試（Q81～Q100） | 20  |    |
| 合計           | 100 |    |

- 80点以上：完璧。「なむ」の4種識別もできる
  - 60～79点：標準合格レベル
  - 40～59点：基礎は固まっている。反語・結びの省略を反復
  - 39点以下：5助詞と結びの活用形から再スタート
- 

## あとかき

係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」の核心： - **ぞ・なむ** → 連体形結び（強調） - **や・か** → 連体形結び（疑問・反語） - **こそ** → 已然形結び（強調） - 「**やは**」「**かは**」はほぼ反語 - 「**こそ～已然形、**」で文中の逆接 - 「**なむ**」の4種識別：係助詞／終助詞（願望）／完了「ぬ」＋推量「む」／ナ変＋推量「む」

入試最頻出。完全暗記必須。

---

**著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

---